

貧酸素水塊の状況 (図2, 7, 表1)

今回の調査では貧酸素水塊はありませんでした。なお水産研究センターでは2.5 ml/L (酸素飽和度約50%)以下を貧酸素水としています。

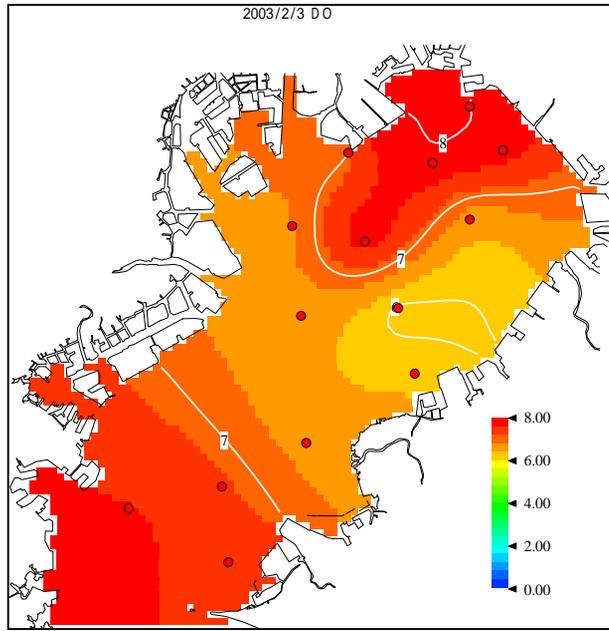


図7 底層の溶存酸素量分布 (ml/L)

表1. 主な調査点の水質調査結果 (表層)

調査年月日:平成15年2月3日

調査点	透明度	水温	塩分	pH	底層のDO	溶存無機態窒素	リン酸態リン	アンモニア態窒素	クロロフィルa量
船橋	3.9 (2.4)	7.9 (8.1)	31.01 (31.32)	8.4 (8.3)	8.0 (6.3)	658 (711)	17 (32)	69 (218)	20
St. 15	4.2 (3.0)	8.0 (9.3)	31.09 (31.92)	8.4 (8.3)	7.9 (6.4)	627 (600)	11 (21)	55 (161)	20
st. 3	5.8 (3.6)	8.3 (9.3)	30.88 (31.66)	8.4 (8.3)	7.7 (6.0)	689 (654)	18 (22)	102 (176)	13
St. 6	5.4 (3.9)	8.6 (9.2)	31.31 (31.85)	8.3 (8.3)	6.5 (5.4)	576 (595)	13 (18)	65 (154)	10
St. 9	6.3 (4.5)	9.3 (9.6)	31.82 (32.06)	8.3 (8.3)	7.2 (6.2)	520 (530)	14 (20)	60 (126)	9
盤洲Cブイ	6.7 (3.6)	11.7 (9.9)	31.48 (31.81)	8.3 (8.3)	6.3 (6.3)	584 (579)	18 (20)	71 (143)	18
St. 8 盤洲Aブイ	4.4 (3.8)	9.3 (9.5)	31.80 (32.05)	8.3 (8.3)	6.6 (5.8)	543 (562)	16 (21)	61 (132)	11
富津ベタ	5.5 (4.0)	9.2 (9.7)	31.76 (32.02)	8.3 (8.1)	7.4 (5.4)	516 (447)	16 (38)	65 (118)	8
第2海ほ下	7.0 (7.0)	10.7 (11.2)	33.18 (33.02)	8.1 (8.3)		378 (380)	17 (19)	40 (82)	5
st. 31	10.0 (8.5)	11.3 (12.0)	33.36 (33.40)	8.1 (8.2)		352 (305)	17 (16)	32 (63)	5
st. 23	23.5 (17.2)	14.6 (14.8)	34.66 (34.50)	8.1 (8.3)		152 (133)	18 (13)	12 (18)	1
st. 1	25.0 (17.5)	14.8 (15.4)	34.75 (34.63)	8.1 (8.1)		137 (90)	17 (14)	12 (14)	1
St. 10 (下洲沖)	9.5 (8.4)	11.8 (12.1)	33.65 (33.45)	8.0 (8.3)		305 (308)	17 (17)	27 (55)	
St. 12 (湊沖)	9.0 (7.6)	12.0 (12.2)	33.88 (33.67)	8.0 (8.3)		278 (254)	17 (15)	22 (45)	
St. 22 (保田沖)	17.0 (16.5)	14.2 (14.9)	34.53 (34.45)	8.0 (8.3)		172 (126)	18 (14)	14 (20)	
St. 24 (富津沖)	16.0 (17.0)	14.5 (15.2)	34.66 (34.51)	8.0 (8.3)		147 (118)	17 (13)	12 (18)	
St. 26 (館山湾内)	25.0 (16.7)	14.7 (15.2)	34.62 (34.54)	7.8 (8.3)		154 (117)	19 (13)	18 (17)	

DOの単位はml/L, 栄養塩類・クロロフィルa量の単位はμg/L
透明度, pH, クロロフィルa量の網掛けは赤潮, DOの網掛けは貧酸素水の基準に達していることを示しています。

2002 (平成14)年の貧酸素水塊の動向について

昨年の貧酸素水塊についてまとめました。貧酸素水塊は底びき網などの漁船漁業に影響が出たり、青潮の発生につながります。8月19~21日には湾奥部で大規模な青潮も発生しました。

1. 底層の溶存酸素量分布 (図8-1~8-2)

「貧酸素水塊速報」(FAX・ホームページ)として発行している底層の溶存酸素量(DO)分布をならべてみました。例年より早く、一時期3月に貧酸素化しましたが、その後は解消しました。継続的な貧酸素水塊の発生は5月7日から11月5日まで続きました。一昨年(平成13年)が5月16日~12月3日でしたので、発生と解消が早くなっていました。

この調査には東京都環境局, 内湾底びき網連絡協議会, 千葉県環境研究センターからデータを提供していただいています。担当者の方々には無理を言って観測当日にデータを提供していただきました。ご協力ありがとうございました。

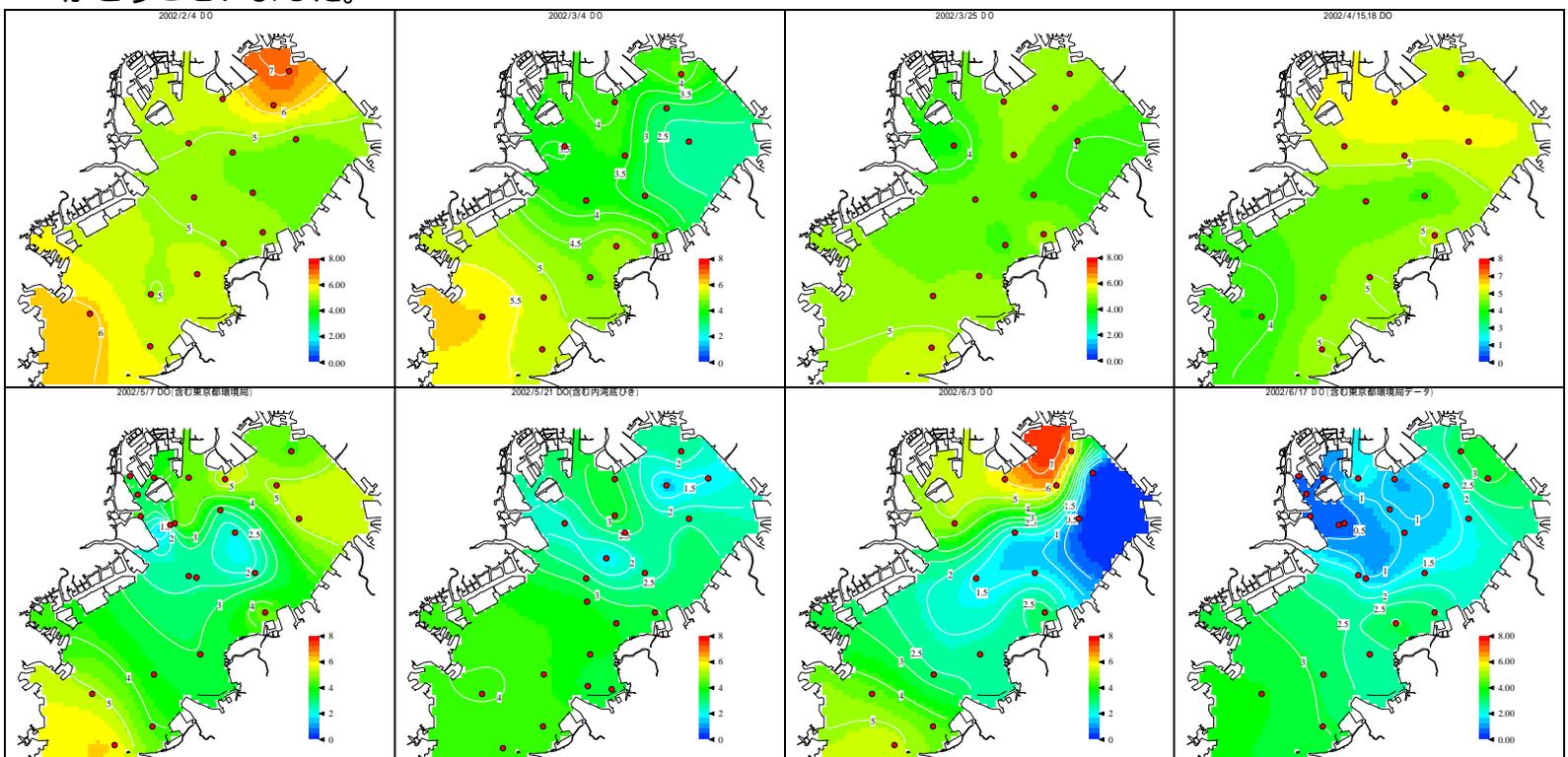


図8-1 平成14年の底層の溶存酸素量分布 (ml/L) つづく